

平成 23 年度第 5 回

県政知事懇談

湯崎英彦の宝さがし —未来チャレンジ・トーク

と き 平成 23 年 11 月 26 日 (土)

ところ 十日市コミュニティセンター 1 階ホール

広 島 県

目 次 頁

開 会	1
知事あいさつ	1
事例発表者紹介	2
ビジョン発表	3
事例発表	8
意見交換	22
挑戦発表	26
閉 会	33

開 会

(司会 (八幡))

大変長らくお待たせをいたしました。ただいまから「湯崎英彦の宝さがしー未来チャレンジ・トーク」を開催いたします。

私は、広島県広報課の八幡と申します。

本日は、チャレンジに向けて、元気の出る楽しい会にしたいと思っております。どうかよろしく願いいたします。

知事あいさつ

(司 会)

それでははじめに、湯崎英彦広島県知事がごあいさつを申し上げます。

(知事 (湯崎))

皆様、こんにちは。今日は大変お忙しい中、たくさんの皆様にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。今日は「湯崎英彦の宝さがしー未来チャレンジ・トーク」と題しまして、100分間、少し長いですがけれども、会を進めさせていただきます。

その前に、今週の月曜日、三次市を中心に大きな地震がありまして、一部被害も出て、この地域の人には地震も大きかったのが驚かれたのではないかと思います。改めてどこで地震あるいは大きな災害が起きるか分からないというのを感じた次第でございます。ものすごく大きな被害ということにはならなかったのも、それは不幸中の幸いと思っておりますけれども、しっかりと我々も準備をしたいと思っております。

私が就任して1年目は仕込みと基盤づくりの年ということで、今後のいろいろな政策展開についての準備をしてまいりました。その中で10年後の広島県を見据えた、いわゆる総合計画と呼ばれるものですが、**「ひろしま未来チャレンジビジョン」**というものを策定しました。10年後にこんな広島県になりたい、そういうビジョンであります。

今日はその御紹介を私からさせていただくとともに、これはまた御説明しますが、挑戦をしていくということが非常に大きな要素になっています。今日はこの未来チャレンジビジョンのテーマである**「挑戦」**について実際に取り組んでいただいているお三方に来ていただきまして、皆様の挑戦を御紹介させていただくことになっております。県民の皆さん一人ひとりがこの**「挑戦」**をしていくことによって、広島県というものが大きく変わっていくと思っておりますので、是非今日の代表者の方々のお話を楽しみにしていただければと思います。

ちなみに、宝さがしという題がついていますけれども、初年度は23の県内の市町を一つ一つ回らせていただきました。今年度は県内を8地域に分けさせていただきました、こういった形で進めています。今日は三次市、庄原市の3人の方に来ていただくとともに、観客の皆様も三次市、庄原市を中心に来ていただいていると思います。

今日は第5回目になるのですが、今日のお話をお聞きいただいて、それぞれの地域や、職場、あるいはグループの中で、またこの「挑戦」というものについてお話をいただけたらと思っております。それによってまた新しい挑戦が生まれていって、広島県が活性化できたらと思っています。

後ほど全体の意見交換の時間を設けておりますので、大変恐縮ですが、最後までおつき合いいただければと思います。それでは、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(司 会)

湯崎知事、ありがとうございます。湯崎知事、壇上のお席にお座りください。よろしくお願いいたします。

事例発表者紹介

(司 会)

それでは、本日の事例発表者の皆さんを御紹介いたします。発表者の皆さんは壇上にお上がりください。

それでは、順番に御紹介をさせていただきます。

三次市で、米や野菜づくりのほか、特産品開発などにより、地域農業の活性化に取り組んでおられる「農事組合法人なひろだに」代表理事の児玉勇様です。

続いて、三次市で子育ての支援を行っておられる「KADOYA子育ての会」共同代表の徳岡真紀さんです。

続いて、庄原市でオープンガーデンなど、地域の景観づくりや新たな観光振興に取り組んでおられる「しょうばら花会議」理事長の佐藤浩子さんです。

どうもありがとうございました。事例発表の皆様はお席にお座りください。後ほど事例発表をよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

ビジョン発表

(司 会)

それでは、湯崎英彦広島県知事が「ひろしま未来チャレンジビジョン」についての発表を行います。湯崎知事、どうぞよろしくお願いたします。

(知 事)

先ほど御紹介させていただきました、昨年つくりました「ひろしま未来チャレンジビジョン」について御紹介させていただきます。

このビジョンは、広島県がどこに行きたいかというものになるわけですが、大きな基本理念としてこういうことを掲げています。「『広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かった』と心から思える広島県の実現」、こういうことであります。この理念だけを聞くと、ひょっとすると普通かなという感じに聞こえるかもしれませんが、実は結構野心的なものだと私は思っているのです。これは三次市あるいは庄原市の皆さんは比較的実感していただきやすいのではないかと思います。この「生まれ、育ち、住み、働いて良かった」と心から思ってくれていると、皆さんやっぱり住み続けますよね。ですが、今、実は広島県全体を見ますと、60歳までのすべての年齢層で広島県から外に出る人のほうが、広島県にやって来る人より多いということが起きています。これは昔は違いました、昔は18歳から20歳ぐらい、要するに大学に進学をすることの年代というのは広島県から外に出る人が多かったけれども、25歳から30歳ぐらいになると、戻ってくる人のほうが多かった。同じ人が戻ってきているかどうか分からないのですが、人口全体の出入りを見ますと、昔は広島県に来る人のほうが多かったのです。ところが、今は広島県から出て行く人のほうが多い。ということは、この「生まれ、育ち、住み、働いて良かった」と心から思っただけしているのだろうかということが非常に大きな、それこそ「挑戦」を試されているのではないかと思うわけです。もちろん今、住んでいただいている人たちは、広島が大好きで、良かったと思ってもらえている人がたくさんいらっしゃると思うのですが、そういう人をもっともっと増やしていかなければいけない。そして、今の人口の社会減、広島から出て行く動きをとめていくことが必要だと思っています。

今の人口の減少であるとか、あるいは高齢化であるとか、いろいろ言われていますけれども、そういう意味でこの今のままの流れを続けていくと、実は予測される将来というのは、ものすごく明るいとは残念ながら今は言えない状況にあるのではないかと思います。これは大変残念なことではあるのですが、これまでの経済情勢、あるいはお医者さんが地域でどんどん不足していくとか、高齢化がどんどん進んでいくとか、そういうことを踏まえて考えてみますと、今の流れのままでは必ずしも明るいとは言えない。しかし、それに対して努力をすれば、決して暗い将来だけではない。明るい未来をつくることが必

ずできると思うわけでありませぬ。

これをこういうふうに変えていくために、どんなことをしなければいけないのかということが今、求められていることでありまして、この目指す姿というのをこのビジョンの中で描いているわけだ。

この取組の方向を考える上で、実は大きな二つの変化をポイントとして押さえないといけないと思っています。一つは人口減少と少子高齢化、もう一つは経済活動をはじめとするグローバル化ということではないかと思うわけでありませぬ。人口減少というのは、これは今の人口の将来推計なのですけれども、平成 10 年が実は広島県のピークで 288 万 6,000 人、約 290 万人の人口がありました。ところが、これが平成 47 年、今から 24 年後ぐらいには 239 万人、約 240 万人です。つまり、このピークから比較しますと 50 万人、人口が減るという見込みになっているわけだ。少子高齢化とか人口減少というのはよく言われて、皆さんよく分かっているとおっしゃると思うのですが、それがどのぐらいのインパクトなのかというと、50 万人なわけだ。広島県で言えば、人口 50 万人というのは福山市です。福山市の大きさの都市が丸ごと広島県からなくなってしまう。福山は広島第 2 位の都市だ。それぐらいのインパクトがあるというのが、これから 23 年、24 年、それぐらいの間に起きる。

23 年とか 24 年、そんな先のことは……と思われるかもしれませんがけれども、私はいつも逆に考えるのです。23 年前は何をしていたかということ、私は学生だったのでけれども、いわゆるバブルのころです。バブルのころ、皆さん、ほとんどの方が鮮明に覚えていらっしゃるよな。まだ生まれていない人もいるかもしれませんがけれども、20 年というのはそんなに長い話ではないのです。意外とあっという間に過ぎるといのが人生の実感であります。そういう意味では、これがあっという間に減っていくということでありませぬ。

もう一つはグローバル化と言いましたけれども、要するに、何が起きているかということ、中国をはじめとしてアジアの国、あるいはブラジルとか、こういった国がどんどん日本にやってきます。日本にやってくるというか、世界中でこういう国々が活躍をするようになるのです。これまではあまりつき合わなくてもよかったかもしれないのですけれども、これからは何をやるにしても必ずつき合わなければいけないということになるわけだ。従来のグローバル化というのは、日本が外に出て行くグローバル化だったので。だから、積極的に行けばよかったし、日本はそうやってきたのです。ところが、日本がかなり発展して、今は内向きになったと言われていませぬ。留学生なんか、日本から外に出て行く留学生が半減している状況ですけれども、世界では何が起きているか。どんどん新しい国がプレイヤーとして参加してきているわけだ。こういうところとどういうふうにつき合うかということが非常に重要な問題になってきていませぬし、これは日本が出て行く話ではなくて、世界がやってくる話なので、僕らが嫌だと言っても巻き込まれてしまう。それにどう対応するのかということが非常に重要になっていませぬ。そういう意味で、今、非常に大

きな時代の転換点にあると認識をするべきだと思っています。

先ほどの人口減少というのも、江戸時代とか、あるいはそれ以前に、例えば飢饉が起きてちょっと人口が増えなかったとか、人口が減ったということが歴史的にあるかもしれませんが、基本的には日本という国は弥生時代とか縄文時代からずっと人口が増えるというのが基調だったのです。歴史上、人口が減る社会というのを我々は経験したことがないのです。何が起きるかという、既に問題になっていますけれども、地域の学校をどうするのか。あるいは、もっと人口減少が進んでいくと、水道をどうするのか。そんなことが問題として起きていくわけです。それぐらい本当は深刻な話で、これまでどおりのことをやっていたのでは、とてもじゃないけれども、立ち行かなくなるというのが本当に正直なところですよ。

では、どうすればいいのか。新しいことに取り組まなければいけない。これまでどおりのやり方では成り立たない。どうやるか。これは経済でも、あるいは地域づくりでも、医療でも、学校でも、これまでどおりのことではやっぱりやっていけないのです。学校の話もあります。今、小規模校が増えて、小規模校をどういうふうに成り立たせるか。これは単に小規模校をそこで維持すればいいという話でもないわけです。例えば1学年に児童・生徒が20人しかいないという中であっても、みんないろいろな関心がある。例えば高校の理科であれば、化学も物理も生物も地学もみんな興味があるわけです。20人のためにその先生方を用意しなければいけない。でも、地学をとっているのは1人しかいない。先生はつけばいいかもしれないけれども、1人だけで地学の勉強をして、切磋琢磨がなくなるとか、そんなことも起きて来るわけです。どう課題を解決しようかというところで、今、教育委員会は小規模校連携ということもやっています。これまでの、地域にあるのは地域で独立してやってくださいというやり方だけではうまくいかない。だから、いろいろな工夫をやっています。これまでと違う、小規模校連携だから、車に乗って、部活のためにどこかに行ったりしなければいけないかもしれない。でも、クラブがないよりはいい。そういう小規模校連携というのを、今、始まったばかりで、これからももちろんその評価をしなければいけませんけれども、例えばそういう形でこれまでになかったやり方というのをあらゆる面で試していかなければいけない。それがまさに挑戦です。失敗するかもしれない、うまくいかないかもしれないという話が必ず出てくるのですけれども、でも、これまでどおりやっていったらどうなるでしょうかと言ったら、坂を転げ落ちる。それは、ある意味でいうと、明らかに近い。では、失敗してもいいから新しいこと、前向きなこと、何か生むもの、それをやろうじゃないか。そういうことが今、必要なわけです。それを挑戦と言うわけです。やっぱり挑戦が必要だと。でも、挑戦というのは、これまでと同じことをやっていたのでは挑戦とは言わないですよ。あと、簡単にできることは挑戦とは言いません。この挑戦というのは、やっぱり難しい、あるいはこれまでやったことがない、そういうことになるわけです。失敗するかもしれない。でも、いいじゃないかと、その失敗を恐れて

立ち止まるほうがおそろしいことではないか。是非この挑戦というのを進めていかなければいけない。

今、広島県では四つの分野に政策を分けてこの挑戦に取り組んでいます。経済成長、地域づくり、暮らしづくり、そして人づくりという四つの分野です。

「人づくり」ということでいいますと、この将来像としては、これからの県を内外から支える人材を育成して、人をひきつける就業機会の創出など、すべての県民が輝く環境を整備していくということです。例えば先ほどのグローバル化という観点からいうと、留学生の受入・定着を倍増しようということをやろうとしています。今、広島県に来ている留学生が2,000人弱ぐらいいるのですけれども、これを倍増しようじゃないか。これも批判的な見方をすると、いやいや、今、若者の就職が困っているときに、何で外の人を入れてこなければいけないのか。そういう話も出てくるかもしれません。でも、広島に留学してくるような人たちは、アジアの中でも非常に優れた人たちが来るわけで、そういう人たちが広島のために力を発揮してくれたら、かなりこれはパワーになる。物事をどういう面から見るかということになるわけですが、いい面から見るとそういったことがあるわけです。広島力になってくれる。

あるいはイノベーション人材の育成ということで、中小企業の人材育成、これはいろいろな研修機関に行っていただくのに、年間最大400万円ほど補助をするということもやっています。

それから、県内の県立高等学校82校すべて海外の学校と姉妹提携を結んで、お互い交換留学生を出しましょう。それによって、毎年逆にいうと82人の高校生が外国に行って、そこで経験するというのを進めています。

また、「新たな経済成長」、今年の春にいろいろ話題になりましたけれども、「ひろしまイノベーション推進機構」、これは100億円のお金を用意して、それを成長する企業に出資して、一緒に汗をかいて成長企業を応援しようと、そういう仕組みであります。これも全くこれまで行政が手をつけてこなかったやり方なのですけれども、これもリクスはもちろんあります。失敗するかもしれないけれども、これによって成長企業を応援できたら、これもまた大きな成果が得られるということで、これを始めています。

あるいは、新しい産業クラスター、広島は非常にたくさんの産業があります。自動車とか造船、それから電子機器、いろいろあるのですけれども、さらに新しい産業を生んでいく。時代は変わっていきますので、いつまでも今と同じことを続けるということはなかなか難しい。医療分野、あるいは環境関連分野での新しい産業づくりというのを進めています。

「安心な暮らしづくり」でいうと、例えば広島県地域保健医療推進機構、これは地域のお医者さんが今、足りません。足りないのを、これを何とかしようということで、年間15人から16人のお医者さん、広島県で働いてくれるお医者さんを確保しています。確保して

いると言っても、まだ学生なので、これから出てくるのですけれども、そういった学生さんを中心として、県内各地にお医者さんを派遣していこう。そういったことをやる機構をつくりました。

また、ドクターヘリ、これも導入をほぼ決定しています。こういったことを進めて地域の医療を守るということを進めようとしています。

それから「豊かな地域づくり」ということで、御承知のとおり「瀬戸内 海の道構想」の推進、瀬戸内という世界でもあまりない、非常に美しい瀬戸内という力を使ってもっとたくさんお客さんに来てもらう。それは瀬戸内だけではなくて、この中山間地域の観光メニュー強化ということで、県北を含む地域とも連携をしながら、お客さんに県内を楽しんでいただく。そういったことを進めています。

それから、過疎地域の未来創造支援といいまして、過疎地域で若者が長く定着することができる、そのための計画をそれぞれの市や町につくっていただいています、県がそれを応援するということを進めています。

こういった様々な新しいことに取り組んでいますけれども、最後、メッセージとしては、挑戦と言うのですけれども、やみくもに挑戦するということではない。地域、地域、それぞれに強みとか宝があるのです。例えばこの三次市・庄原市であれば、やっぱり豊かな自然というのは大きな宝です、山、これも宝。三次市でいえば、もののけの話、こういったことも大きな宝です。そういったものを生かして新しいことをやっていこう。挑戦をしていこう。それを県民の皆様一人ひとりが取り組むことによって、本当に広島県は変わっていくと思います。

今日の発表者の皆さんのお話を聞いていただくと、本当にああ、そうだなと思われると思うのですけれども、県庁あるいは市役所が頑張っても、例えば経済の面でいえば、県庁が商売はできないのです。市役所が商売はできないのです。商売をするのは、やっぱり県民の皆さん、事業者の皆さん、あるいは医療についても、医療のサポートをすることは役所はできますけれども、実際に医療のサービスを提供するのはお医者様、あるいは看護師さんです、それを実は受診するということも含めて、支えているのは市民の皆さん一人ひとりなのです。それぞれが行動を変えていく。新しいことに挑戦していく。それによって、はじめて広島県は大きく変わっていくと思っています。

以上が、このひろしまチャレンジビジョンであります。新しいことに向けて、皆さんが挑戦をする。そして、県庁あるいは市役所、行政がそれを全面的にバックアップしていく。そうすることによって明るい未来が切り開けると思っておりますので、是非またこの後の今日のお話もお聞きいただきながら、皆様の挑戦も考えていただければと思います。どうも御清聴ありがとうございました。

(司 会)

湯崎知事，ありがとうございます。広島で生まれ，育ち，住み，働いて良かったと心から思える広島県を実現するために，皆さんとともに地域の強みを生かして挑戦を続けていきたいと思えます。

さて，湯崎知事への質問など意見交換は，次の事例発表が終了した後に併せて行いたいと思えます。どうかよろしくお願ひいたします。

事例発表

（司 会）

それでは，これから事例発表に移りたいと思えます。湯崎知事にはこの事例発表のコーディネーターを務めていただきます。湯崎知事，どうぞよろしくお願ひいたします。

（知 事）

ありがとうございます。それでは早速始めたいと思えます。今日，事例発表していただく3名の方，それぞれの地域でいろいろな活動に携わっていらっしゃるのですけれども，まずはじめは，三次市の児玉勇さんです。児玉さんは，先ほども少し御紹介があったとおり「農事組合法人なひろだに」の代表理事として，お米，また野菜づくりのほか，加工食品の製造もやっておられるということでありませう。

また，新しい特産品開発にも取り組んでいらっしゃるにしまして，雇用の創出，また地域農業の振興といった新たな経済成長に挑戦をいただいています。

今日の発表のテーマは，「21 世紀“活力の創造” 未来に夢の広がる地域営農」です。それでは，児玉さん，よろしくお願ひいたします。

（事例発表者（児玉））

御紹介いただきました児玉でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。非常に緊張いたしております。先月，10 月 27 日に皇居のほうへ私たちのつくった米を献納してまいりました。天皇，皇后両陛下にお会いしたときには非常に緊張いたしました。それと同じように今日も緊張いたしております。

それでは，私たちが日ごろ取り組んでおります法人の取組について発表していきたいと思えます。そこに掲げております大きなタイトルになっておりますが，「21 世紀“活力の創造” 未来に夢の広がる地域営農」を目指すというテーマで今，取り組んでいるところでありませう。農業が中心でありませうので，その絵に出ております乾燥施設，加工の関係，小さな事務所でありませうが事務をするところと，それから会議室，その横にあります倉庫，これは農機具倉庫，秋にはこうして米を積んで出荷までここに置いておくというところ

す。

ところは三次市三和町羽出庭です。市内から大体 30 分南のところですか。隣接するのは、安芸高田市の向原町、北は安芸高田市の甲田町というところですか。

私たちの経営理念といたしましては、ここに書いておりますように、「集落の農地は集落のみんなを守る」。生きがいと安心して暮らせる地域営農を目指すということを理念に取り組んでおります。

この中身というのは、これから私たちの集落というのは高齢化が非常に進んでまいりますし、少子化でもあります。この地域の農地を守らないと地域が崩壊するということがありますので、まず、農地を守るにはどうしたらいいかということで、農事組合法人を立ち上げて、まず農地を守る。そうすることで集落を守っていくということを基本に、この法人を立ち上げて取り組んでいるところです。経営方針としては、そこに書いておりますように農地は集落のみんなを守る。そして、効率的な経営を目指す。それから、これまで地域でずっと取り組んでおります地域の伝統あるおいしい米をつくっていきこう。それから、つくった米は、安心・安全で消費者に提供していきこう。それから、水稲だけでは経営ができないという状況にあります。TPPも問題がありますが、これと同じように、米だけではどうしてもやっていけないということがありますし、また、米だけではそこに住む人が男ばっかりの仕事になっていく。そうしたときに、女性の力を地域へ反映しようということで、加工、複合経営をやっています。とれたものに付加価値を付けて商品化して販売していきこうということでもあります。

それから、地域の伝統、いろいろな祭りがありますが、こういうことも、法人として、地域と一緒にやっていきこう。安心して暮らせる地域づくりを目指すということでもあります。

そして、後継者というのがありますので、担い手、後継者育成、実行力のある創造性発揮型のある人間をつくっていきこうじゃないか、ということでもあります。

集落の概要ですが、この三次市よりはかなり高いところがございます、標高が 320 メートルから 440 メートルぐらいの高冷地でありまして、高いところですので、本当に水がきれいなのです。この水がきれいな清流をもって栽培をしていけば、非常においしいものができる。そして、消費者に喜んでいただけるということでもあります。

集落の戸数の関係であります、小さな集落です。総戸数が 76 戸、農家戸数が 68 戸、参加農家が 58 戸ということですか。

地域の面積ですが、約 60 ヘクタールであります。そのうち利用権設定をしているのが約 50 ヘクタールということ、水稲が大方 30 ヘクタールという状況であります。あとは大豆、広島菜等があります。そこに図面を書いてありますが、こういうふうな集落で、上になっているのが下流で、下側が上流になります。これが 3.5 km の距離があります。写真に載っておりますように中山間の非常に棚田でありまして、非常に苦勞するところもございます。

次に、どういうものをつくっているかですが、水稻では、コシヒカリ、ひとめぼれ、コノエモチ、それから酒米になります八反錦、八反35号、そして掛米では中生新千本であります。それから、大豆、広島菜。そこに写真が出ておりますが、上のほうのハウスは育苗ハウス4棟、ここで水稻の育苗を行っております。

それから、下のほうでは、大豆の状況であります。ピーマンの栽培、その下が広島菜、そして、にんにく栽培を行っております。

それから、経営の状況ですが、売上げは21年度では4,500万円 余りであります。そして、営業利益は、はじめて、今年で6年になりますが、21年には127万6,000円の営業利益を出しました。そして、22年度の営業利益はマイナス1,000万円。昨年は米が非常に下落いたしまして1,000万円の赤字をつくったということでもあります。トータルの経常利益は黒字であります。21年度は780万円余、そして、22年は730万円余りの経常利益を出しております。これは、営業外収入、要するに戸別補償、あるいは中山間直払いの補助金等で黒字が出たところでもあります。

それから、賃金の概要であります。一般賃金が800円、オペレーターが1,000円等々、そうして賃金を払って地域へ還元しているという状況であります。

それから、加工の関係ですが、特に女性部の中で加工へ取り組んでおります。特に豆腐をつくって、おからが出る。このおからを利用するというでもありますし、大豆をつくって、大豆を利用して付加価値を付ける豆腐づくり、スモーク豆腐、それから味噌の関係、そこに挙げておりますが、こういうふうなものを地域の資源を生かして付加価値を付けて商品化してこれを販売しています。こうすることによって、地域の女性の人たちが元気になるということでもあります。その写真はNHKのおこのみワイドの生中継をしていただいたときの写真であります。

それから、豆腐の関係、味噌の関係の写真であります。

女性8名が年中豆腐づくり、加工品に携わってもらっております。休みは土曜日と三が日だけで、それ以外はずっと毎日朝早くからこうした取組をしてもらっております。

これが商品の一例ですが、厚揚げとか、餅、おから餅、それから飴の関係、おかず味噌、こういうものを商品化しているところでもあります。

それから、おからドーナツ、これは豆腐から出るおからを利用して、これを捨てずに有効利用しようということで「おからドーナツ」をつくっております。これは非常に喜んでいただいて、よく売れる商品です。

それから、スモーク卵、それからスモーク豆腐、味噌ドレッシング、それから味噌、それから野菜の煮豆というようなものをつくっておりますが、すべて法人でつくった大豆を利用して付加価値を付けて、こういう商品開発をして、自然の資源を利用して、こうしたものを販売している。添加物を入れない、手づくりでのものでもありますので、消費者の皆さんには安心・安全であると自信を持って売っている状況です。

それから、地域を活性化する取組ということで、ここに掲げておりますが、地域を活性化するには、こういうふうな取組の中で、なひろだにの地域をよくしていこうということで取り組んでいるところであります。

そこに書いておりますように、コミュニケーション、あるいは、協働の地域創生、いろいろなものの活用、情報・行事の活用とか、地域保全とか、地域の文化を継承していくとか、地域交流の活用、地域の特産品づくり、それから福祉関係、こういうところで一緒になって地域を活性化していこう。このことを法人が中心となって取り組んでいるところであります。

それから、地域には非常にきれいな清流が流れておりますので、ここにはほたるが非常に多く出ます。これを利用してほたる祭りを6月に行っております。地域外から、遠いところでは大阪のほうからも来ていただいて、300人ぐらい、特に子どもさんが非常に多く来ていただけます。このときに麦をつくった麦わらでほたる籠をつくって体験してもらっております。多くの方がこれを体験して、非常に喜んでいただいておりますし、また、下のほうでは、あらゆるところのイベントに参加させてもらっています。広島市、三次市、甲田町等々、いろいろなところへ出ていって、自らできたものを皆さんに提供して、買ってもらっているという状況であります。

農地・水・環境保全向上対策事業、これも地域で一体的になって地域の環境を守っていかうということで点検作業、あるいは草の刈り取り、農道整備等、イノシシ柵ネットの修理、こういうところを地域のみんなで取り組んでいる状況であります。

その下の研修会反省会というのは、1年間の総まとめ、そして、地域の皆さんの声を聴くということで、年1回、庄原市のかんぼに行ってお皆さんと議論するという場をつくっております。

それから、その横の各地域からの視察というところですが、多くの方が視察に来ていただいております。遠くでいえば、鹿児島、北のほうでいえば、仙台のほうからも来ていただきました。

法人としての積極的な取組の行事として、先ほど申し上げましたほたる祭りから始まって、いろいろな行事をやっております。

課題としては、いろいろな課題がありますが、農業経営の問題であります。法人の経営が軌道に乗らなくて法人が行き詰まると、地域がもたないということで、生産コストの考え方。

それから農業所得の増大、これは売上げを伸ばす努力をしていく。

それから、農業者が高齢化していく。若者にこれから入っていただく、担い手になっていただく。

それから、顧客、これは社員と書いてありますが、構成員の満足度を整えていかなければならないと思っています。

このことについては、6月から12回に分けて経営戦略プロジェクトチームをつくって、十分議論をしてきました。これは、県の指導所にも協力をいただいて、やっと先月の末に骨子ができました。これを明日の反省会で、庄原市に行きますが、構成員の全家族が参加して、ここで議論することにしております。平成24年度の事業計画と、これからの5年間、これを経営に乗るような、発展するような方向へ持って行きたいと思っております。

時間が過ぎるのですが、やはり理想像、現実、社会性、この三つの要素ということで、同じ目的と、協調してやろうという気持ちと、それからお互いの連携をとっていこう。コミュニケーションをはかっていこうということでもあります。私たちの基本的な考え方というのは、私たちは都市に比べてないものをねだり、愚痴を言うより、地域を楽しく生きるためのもの探しをしていこうと思っています。地域には宝が本当にいっぱいあります。この自然の資源を活用して、より楽しく暮らせるなひろだに地域を一人一人が知恵を出しながら進めていきたいと考えております。御清聴ありがとうございました。

（知 事）

児玉さん、どうもありがとうございました。なひろだにのいろいろな事業の御紹介をいただきました。ここのスライドもそうなのですけれども、理想、現実、社会性、あるいは同じ目的、協調、コミュニケーションという、これは県庁にそのままあてはめたい。どの組織とか、どの活動グループでもこれは言えると思うのですけれども、やっぱり農業でも、こういう考えを当てはめて、しっかりと動かれているのはすばらしいと思います。あと、私、これもすごいと思ったのですけれども、よく農業の六次産業化ということが言われているのですけれども、それをなぜやるか。女性の力を使う。これもすばらしい考えだと思うのです。地域の中で、人が少ないというところで、いかに女性の力を発揮していただくか。それも、普通の農作業というよりも、加工することによって、ある意味でいうと付加価値が高まるということですよ。それだけ価値の高い仕事を女性の力を使うことによって実現するというのをきちんと考えられて取り組まれておられるということで、すばらしい活動をされていると思います。もちろんそれにとどまらず、いろいろな地域のお祭りとか、そういったことにも取り組んでおられて、本当に大変だなというふうに思ったのですけれども、これからも頑張って地域を盛り上げていただければと思います。改めて児玉さんに拍手をいただければと思います。どうもありがとうございました。

次の発表者の方をお願いいたします。次は三次市の徳岡真紀さんです。先ほども御紹介があったとおり「KADOYA子育ての会」共同代表として、子育て中の親同士が悩みや喜びを共有できる交流スペースを提供されているところです。

また、徳岡さんは、料理教室や様々なワークショップの開催もやっておられまして、市民同士の交流の推進にも取り組んでいらっしゃいます。そういった意味で、安心な暮らし

づくり、あるいは、豊かな地域づくりに挑戦をされています。

発表のテーマは、「子育てフリースペースKADOYA発！つながるおやこの『わ』」です。それでは、徳岡さん、よろしくお願いいたします。

（事例発表者（徳岡））

徳岡真紀です。よろしくお願いいたします。県知事、今日は三次市によろこそいらっしやいました。今日の日をお母さんとみんな楽しみに待っていたのですけれども、私はときどき、緊張してうまくしゃべれるか不安なのですが、私たちが子育てでお世話になっているKADOYAの紹介を皆さんや知事にできるということを光栄に思っています。今日はよろしくお願いいたします。

私ですが、ここにありますようにKADOYA子育ての会というのを、子育てフリースペースKADOYAというところの中でお母さんの会をつくりまして、共同代表をさせていただいています。今日は「子育てフリースペースKADOYA発！つながるおやこの『わ』」というテーマでKADOYAの紹介をさせていただきたいと思います。

私とKADOYAの出会いなのですが、少しお話しさせていただきますと、私には今3歳の息子がおります。3年前、ちょうど息子が生まれて、しばらくたったぐらいのときに、友だちからKADOYAを紹介してもらって、こんなところがあるよといって、はじめてそのKADOYAに行かせてもらったのがきっかけで、今、お母さんはたくさんいるのですが、今回私は代表をさせていただいて、ここで話をさせてもらっています。

実は私、子どもを生む前は自然エネルギーとか木質バイオマスのNPOの事務局をしております、超仕事人間で、土日もないぐらい、がんがん働いている人で、子育てなんかできるんだろうか、もし子どもが生まれても、お母さん友だちと仲良くやっていけるんだろうかと、とても不安に思っていたのです。でも、このKADOYAに出会ったとき、KADOYAにいるお母さんたちといろいろな話をしていく中で、子育てはこんな自然体でいいんだとか、自分の子も人の子もみんな同じように扱ってくれるお母さんたちの仲間ができたことで、すごく安心して、自分のやり方で子育てしていけばいいんだというふうに気づかされて、私にとって、今、KADOYAという存在が私の中ではすごく大きくなっています。

それで、本来なら私は去年東京に引っ越しをしまして、東京にいるはずなのですが、実は3月11日の東日本大震災のときに、東京にいた私たちも震度8、7クラスのあの地震を受けまして、私と子どもと一緒に三次市に、次の日、3月12日にすぐに避難して帰ってきて、今、実家の三次市にそれからずっと住まわせてもらって、またKADOYAにお世話になっている状況です。

そんな私をいつも支えてくれているのが、たくさんのお母さんの仲間たちだったり、スタッフの皆さん、そのほかいろいろな今、KADOYAにかかわってくれている人たちと

一緒にいろいろなことができるのも皆さんのおかげだと思っています。

皆さんにそんなKADOYAを紹介したいのですけれども、皆さんもご存じと思うのですが、三次市のピオネットというケーブルテレビがあります。そこで、昨年三次市の子育て支援施設としてこのKADOYAを認めていただいたので、その紹介のビデオがありますので、それを見ていただきたいと思います。よろしくお願いします。

【ビデオ上映】

三次消防署の隣にある子育てフリースペースKADOYAです。古い民家を再利用した、どこか懐かしい雰囲気の特徴です。利用時間は、月曜日から土曜日の午前11時から午後4時までです。

「0歳から3歳までのお母さんが子どもたちと一緒に弁当を持ってきたり、ここでつくってもいいわけですし、食べたり、お昼寝させたり、おしゃべりして、おっぱいを飲ませたり、みんなの子育ての悩みとか話をしていると、いろいろな案が浮かんできたりとか、こんなことをみんなでやろうやという話になったり、そのとき、そのとき、本当にやることは無計画でしたけれども、今やりたいことを、子育て中だからこそのことをみんなで一生懸命やってきたのです。」

建物の裏には庭もあり、子どもたちの絶好の遊び場です。

「いろいろな人が出入りするの、いろいろなお母ちゃん友だちができて、子ども同士もいろいろな刺激をもらえて、とても助かっています。」「誰でも気軽に入れるところと、子どもがアトピーだったのですけれども、すごくいろいろな人が励ましてくれて、あと、食事とかに気をつけているお母さんが多いので、そういう面ではいろいろアドバイスをもらったりして助かりました。」

どうだったでしょうか。KADOYAは、裸ん坊とか、どろんこというのはすごくつきもので、毎日のように、こんなちょっと寒くなったときでも、みんな服を脱いだりして、裏の庭で水遊びが始まったりするのです。風邪を引きそうで大丈夫かなと思ったりするのですけれども、そんな元気な子どもたちがたくさん集まっています。

KADOYAは、皆さん一度は見かけられたことがあると思うのですけれども、東京でいえば三次の銀座や新宿といったようなところでしょうか、バスセンターの斜め向いにある、三次駅からもすごく近いところですが、とても古い呉服屋さんを借りて、2007年にこの場所にKADOYAをオープンさせています。これは三次市の空き家チャレンジショップとしてここを貸していただいている状況です。

もともとKADOYAは、学校に行けない子どもたちが気軽に入れる場所をつくらうということで、今、NPOになっています三次親子劇場の一つのサークルとして活動していたのですけれども、それが2004年です。今度、2007年にこちらにオープンさせてもらって、今はこちらで活動していますが、主な事業としては、リサイクル品を、見ていただく

ように、皆さんに支えられて、いろいろな方がKADOYAの運営に利用してくださいということでリサイクルのもの、要らなくなったものとか、服とか、そういったものを持ってきてくれて、そこで販売したり、KADOCAFEとって、ここでカフェをオープンしています。地域の皆さんが気軽に立ち寄っていただいて、年齢を超えて、子どもたちも、お年寄りの方も、ゆっくりそこでくつろげるような場所をということで、KADOCAFEもオープンしています。

KADOYAの三つの「わ」ということで、テーマを絞って紹介したいと思います。

最初に「輪」、お母さんの「わ」、こどもの「わ」ということで、これは毎週金曜日に、年齢にあわせた絵本を、読み聞かせと手遊び、工作などを行いながら、みんなで絵本の読み聞かせ「ちっちゃいさんのおはなし会」というのを行っています。毎回いろいろな子どもたち、お母さんが来てくれて、わいわい楽しんでいます。お昼ごはんも一緒に食べたりして、いろいろお話ししながら交流しています。

ワークショップもたくさん行っています。ここにあるようなつみきのワークショップですとか、手織りのワークショップですとか、毎週火曜日にはヨガもやっています。

KADOYAの特徴として、いろいろなワークショップをやるのですけれども、ほかの子育て支援のスペースと違うのは、親も子どもも楽しめるということを重点に置いています。そして、またお母さんたちが自発的にこういうことをやりたいね、ああいうことをしてみたいねということを実現して、やりたいと思うことをやっていくワークショップをたくさん行っています。

大体毎月1回のKADOYA会議があるのですけれども、そのときに話し合いをして、いろいろな助成金をもらったり、いろいろな人の知恵をもらいながらやるのですが、こういったKADOYAのルールというのもKADOYAの中にはあって、こういったこともみんなで子育てをしながら、思ったこととか、危なかったよということをもみんなで話し合いながら、こういうルールも自分たちで決めています。

ほかの団体や地域とのネットワークも大切にしていまして、おもちゃフェスタというのが、毎年上田のほしはら山の学校で行われていますが、こういったところにも毎年出展させてもらっています。

これは森遊びです。月一度「森のおもちゃの会」主催の森遊びを一緒に開催して、地域の個人の森に入って、みんなでいろいろな森の遊びをしたり、ピザ窯でピザを焼いたり、落ち葉でアートをしたり、そんな遊びもしています。

次に「環」、子どもたちの未来の環境を守るためということで、私たち、子どもとお母さんに優しい食事療法、自然療法、ホームケアを学ぼうというような、これも助成金をもらって、みんなで、実は私がどうしてもしたいと思っていたことで、できればなるべく病院にかからないような丈夫な子を育てたいと思っていたり、それに化学調味料や添加物の入っていない食事、食材を使って、そして、農薬もあまり使われていないような、そういった

地域にある新鮮な旬の野菜を使った食事ですとか、おやつをつくって、子どもたちと一緒に食べてみたり、そういった作り方を学んでみたいということがあって、この企画をしました。お母さんの手のぬくもり、病気になる前の家庭からできる昔から伝わる手当てというものを先生から学んだりして、足湯をしたりとか、梅醤番茶と言って、梅干しとしょうがと醤油を使ったそういう番茶をつくって体を温めたり、病気を未然に防ぐということの重要性を学んだりしています。それは、ずっとやりたいねということで、毎月1回、マクロビオティックという手法を使った和食を中心とした玄米とか、地域の旬の野菜を使ったお料理教室というのをずっと続けてやっています。子どもたちは託児をしてもらって、お母さんが料理をしている間、そこでにぎやかに遊んでいます。託児とかでは地域の人も手伝ってくれて、託児に参加してくださっています。

これはソーラークッカーのワークショップをこの夏に開催しました。これはソーラークッカーといって、耳慣れない言葉だと思うのですが、お日様の力で料理をしています。これは大きなソーラークッカーで、ドイツ製とかですけれども、私たちがつくったのはこっちのちっちゃい、身近にある材料を使って、これもキッチンにあるアルミの敷物なので、そういったものを使って、お日様の力でジャガイモを蒸かしてみました。こうやって手づくりしてワークショップも行ったりしています。

これはKADOYA名物の裸ん坊子どもたちなので、こうやってここにソーラーのパネルが見えますよね。ここからつないで、ここは噴水になって、このお日様の力の噴水で、子どもたちはいつの間にか素っ裸になっているのですけれども、みんなで水遊びをしたりして遊んでいます。子どもは子どもなりにお日様の力、まだソーラークッカーをつくれないうちもこうやって参加してお日様の力を感じています。

最後に「和」ですけれども、子どもたちに平和な未来をとということで、私も3月12日に三次市に避難して帰ってきたということもあって、お母さんのための放射能勉強会とか、測定会もやりました。三次市の地域大学等連携授業というもので助成金をいただいて、県立大学の放射能の専門の先生から放射能について勉強して、実際にガイガーカウンターを使って三次市の公園の放射能測定なども行っています。

そして、子どもたちの未来に安全で持続可能なエネルギーをとということで、広島のお母さんたちと連携して、これは広島市内なので、電車通りのところをみんなで原発なしで暮らしたいという、大きい、これはKADOYAのお母さんたちみんなで手づくりしたのですが、こういった横断幕をつくったりして、みんなで子どもたちと一緒にこういうピースウォーク、デモ行進なども行っています。4月と、8月と9月と連続して行っています。新聞にも取り上げていただいています。

6月には三次市長に要望書を提出させてもらいました。これは、子どもたちに安心・安全な未来を、食べ物を、おいしい空気を、思い切りどろんこ遊びができる環境を残してやりたいというお母さんたちの、私たちの思いで、できれば本当に安心・安全、不安のない

エネルギー、持続可能なエネルギーを使った三次市、どんどんそういった自然エネルギーとかを進めてもらって、三次市で安全に子どもたちを育てることができるようなまちにしてほしいということを要望しました。

これは三次市の広報紙なのですからけれども、ここにその広報の記事を添付しましたけれども、市長がここに載っていますが、これを書いてくださいました。

私たち、こうやって三次でできることはないかということで、広島のお母さんたちと協力したりして、原子力発電から段階的に持続可能なエネルギーへの転換をとということで、こうやって要望なり出しています。また、10月にも、給食の放射能対策をとってほしいということで三次市に要望を出したりしています。

私たち、こういった活動を全くしたことの無いようなお母さんばかりで、デモ行進なども初めてしました。とても慣れないことなのですからけれども、とにかく子どもを本当に不安のないまちで暮らさせたい。未来ある子どもたちに安心を与えたいということで、お母さんが今までになかった力を振り絞って活動しています。私たちKADOYA子育ての会というのも、子育ての会、「守りたいんよ、えがお、いのち、しぜん」というサブタイトルを付けていますが、そういった意味でも、子どもたちの笑顔とか、命、そして三次市のこの空気、川があって、山に囲まれて、すごく自然豊かな場所をそういった放射能なんかで汚したくないと思って、やっぱり子どもが安心して暮らせるということは原発とは相容れないと思って、今、そういった活動も、慣れないですけれども、行っています。

子どもたちがずっと笑顔で、こうやって暮らしていける。これがいろいろな意味での「わ」、キーワードの「わ」だと思っています。私たちKADOYAのお母さんは、これからもこの三つの「わ」を大切にしながら、できることを緩くつながりながら、地域の皆さんに支えられて子育てをしていきたいと思っています。是非一度、皆さん、三次市でもすごく分かりやすい場所にありますので、KADOYAにおいでください。子どもたちがきつと「いらっちゃいませ」と笑顔で迎えてくれると思います。

カープファンの子どもたちがすごく今、増えてきていまして、近々KADOYAカープの会もできると思いますので、そういったカープを応援されている方は、是非KADOYAに寄って、一緒にメンバーになってください。

では、皆さん、長い時間、御清聴ありがとうございました。

(知 事)

徳岡さん、ありがとうございました。ごめんなさい、僕は不勉強で、かどやという地名かと思っていたのですけれども、KADOYAさんですね。民家を利用したグループ活動というのはいろいろな地域であるのですけれども、高齢者のサポートグループが多いですが、子育てというのは初めて聞かせていただきました。やっぱり同じなのですね。今、高齢者にしても、あるいは子育てにしても、核家族だとか、地域のつながりというのが薄く

なっている中で、孤立しがちというか、それをみんなが集まることによって、お互い支え合おう。つながるエネルギーなのかなというふうに思ったのですけれども、子どもたちの笑顔がとても楽しそうで、この活動がすごく子どもたちのためになっているなどというのが本当によく分かる写真と発表だったと思います。

僕が個人的にちょっとうれしかったのは、写真の中で参加している大人の中にお父さんがいたんですね。やっぱりお父さんにも参加をしてもらって、ますます活発になっていただければと思います。

それでは、徳岡さんにもう一度大きな拍手をお願いいたします。どうもありがとうございました。

それでは最後になりますけれども、庄原市の佐藤浩子さんをお願いいたします。佐藤さんは、丹精込めてつくった庭や花壇を一般公開するというオープンガーデンの取組を通じて、地域の景観づくりと地域間交流の促進を行っていらっしゃいます。

また、さとやまオープンガーデンの企画・開催など、新しい観光開発の取組によって、豊かな地域づくりに挑戦をいただいています。

きょうの発表のテーマは、「身近な玄関先からはじめる『花と緑のまちづくり』」です。それでは、佐藤さん、よろしくをお願いいたします。

（事例発表者（佐藤））

皆さん、こんにちは。私は庄原市から参りました佐藤と申します。

今日は、身近な玄関先からはじめる「花と緑のまちづくり」と題してお話いたします。どうぞよろしくをお願いいたします。

少し自己紹介をします。私は庄原市に生まれ、ここで育ち、ここで結婚して、ここでおばあちゃんになりました。そして、今、私は庄原市女性会の会長としょうばら花会議の理事長をさせていただいております。しょうばら花会議のシンボルマーク、かわいいでしょう。これは女性会で取り組んできたミニ街路樹の常緑やまぼうしの木がデザインされています。

昨年8月に立ち上がりましたしょうばら花会議が、にわかに注目を集めたのは、今年、春と秋に「庄原さとやまオープンガーデン」を実施したからです。オープンガーデンとは、美しく快適な場所を開放するという趣旨があります。これは、イギリスのオープンガーデンの一例です。

それでは、庄原オープンガーデンの様子を見ていただきましょう。春には4日間で延べ人数2,400人の方が来られました。公開したお庭は11庭でした。珍しい取組ということで、新聞やテレビで取り上げられ、広島や福山、呉などから多くのお客様が来られました。お客様から「庄原市はいいところですね」と言っていただいたことがとてもうれしいことで

した。

秋には1週間実施しました。来られた方は、延べ人数で15,000人となりました。公開していただいたお庭は18庭に増えました。

ここで、レジャー白書2009より、ガーデニングの人気を見てみましょう。園芸、庭いじりを行った人は、総人口の25%で、3,260万人だそうです。身近で気軽に楽しめ、花や緑を見ることで心の安らぎや、育てることで喜びや満足感が得られるということで人気のレジャーになっているようです。

それでは、どのようにしてこのような取組ができたのか、お話ししましょう。

まず、私がいます本町支部女性会は、広い庄原市の中央部に位置する支部で、会員は340名余りいます。私たち本町支部女性会では、約20年前から花いっぱい運動をしています。また、常緑やまぼうしの鉢植えを街路樹のない道路沿いに設置するミニ街路樹事業を3年前から実施しています。その管理は里親さんをお願いしています。6月の花のころには白い花が咲き、町の人たちに喜ばれています。

これらの活動は景観の向上や安心・安全の地域づくり、青少年の健全育成などを願って行っているものです。

そのほかに、自治振興区の散歩道のスイセンやコスモス、観光協会のフラワー通り、また、個人の花桃同好会や、おうちカフェ・ノラの家など、少し調べただけで25の団体が個々に花に関する事業を展開していることが分かりました。

私はそれぞれが行っている点と点の花の取組を結んで、一つの大きなネットワークをつくれば、もっと力強い、花によるまちづくりができるのではないかと考えました。

そして、約半年、準備期間で同じ思いの方々にお会いして、お話しして、賛同を得て、昨年8月9日、「しょうばら花会議」が設立できました。そのときの事業実施計画に書いたものを図にしてみました。計画書では難しく書いていますが、平たく言いますと、この組織は誰のものなのか。それは、参加した人みんなのものでなければなりません。そして、目的は、参加する人が求める成果でなくてはなりません。非営利組織が参加する人に提供できる満足は、お金ではなく、参加することが楽しいことと、やりがいを感じることに。これが人を動かす原動力になると考えました。

私は、あいさつの中でいつも言う言葉があります。花が好き、緑が好き、そして、何よりも庄原市が大好き。この言葉です。そして、庄原市が大好きな人、みんなおいでと入会を呼びかけています。

これは、しょうばら花会議の組織図です。まず、理事会があります。大きな方針はここで決めます。理事9人のうち、6人が女性です。女性パワーがすごいねとか言われています。その下に現在139名の会員がいて、その中に専門部があります。

庭主部会では、オープンガーデンの実施を計画、実行いたしました。

庭花部会では、備北丘陵公園で丘陵公園の持つ植物のノウハウを勉強して、自分たちの

スキル向上に努めます。

事務局は若者ぞろいで、しかもイケメンです。かつ、優秀な人ばかりなので、私たちの強い味方です。

続いて、活動の様子を見ていただきましょう。これは寄せ植え講習会です。講師は副理事長の齋木さんです。備北丘陵公園で植栽を担当されており、その豊富な知識と経験から花の先生として花会議にとってなくてはならない人になっております。

これは、フラワー通りの植栽ボランティアです。ここでも齋木さんの指導を受けています。

これは、昨年3月6日に開催しました、テレビでもおなじみ切尔西ガーデニングショーで3年連続金賞をとられた日本を代表するガーデナーである石原和幸先生の講演会の様子です。花によるまちおこし、日本列島を花列島にしようと壮大に熱くお話をされました。

これは、秋のオープンガーデンと並行して行ったガーデニングコンテストの様子です。市役所前の広場で開催しました。今年で2年目なので、出品される方のレベルも上がり、私も出品しましたが、入選しませんでした。ちなみに、写真の一番前に写っているのが私の作品です。自分ではいけていると思ったのですが、残念というか、やっぱりなというところでしょうか。

続いて、庭花部会の様子です。毎月第3日曜日、備北丘陵公園で楽しく勉強しています。

これは、庭主部会です。これは昨年10月7日に、先進地視察で三田市を訪れたときの様子です。組織の運営方法やオープンガーデンの開催について、熱心に聞いて帰りました。そのとき、三田の庭主さんとお話した中で、オープンガーデンをすることは自分自身の喜びでもありますと話されたことがとても印象に残りました。

それでは、さとやまオープンガーデンの様子を紹介させていただきます。これは、庄原さとやまオープンガーデンのガイドブックです。

ここは貝崎庭です。裏山を借景に美しく大きな日本庭園です。私は、「このお庭は宝物です。貝崎さん、独り占めにしないでください。庄原市の宝物です」とお話をしました。同級生という気安さから言いたいことを言ってしまいましたが、貝崎さんは私の思いに共感してくださいました。今、庭主部会の部長としてオープンガーデンを成功に導いてくださいました。

ここは三村庭です。庭はメルヘンの庭と言われています。このお庭は、大阪からUターンされた三村さんの娘さん夫婦の祐亘さんがつくられたものです。まちづくりの大切な要素に、外から新しい考え方を提供してくれる「風の人」があります。その土地に長く住んで、まちづくりに頑張っている人のことを「土の人」と言うそうですが、外から見る目を持って庄原市のよさを折々に教えてくださる祐亘さんはまさに新風を吹き込んでくださる「風の人」です。

ここは佐々木庭です。裏山全体を取り込んでつくられた雄大な庭です。手づくりでいろいろなものをつくられています、写真の足湯は素晴らしいです。お客さんたちの笑顔がいいですね。

ここは堤庭です。これは代々受け継がれている日本庭園を広い廻り縁で、まるで縁側カフェのようにしてくつろいでおられるお客様の様子です。

すべてのお庭を紹介したいのですが、時間がありませんので、今日はここまでにしておきます。

私は、それぞれのお庭が庄原市の宝物ですと言ってきましたが、庭主さんたちと交流するにつけ、気がつきました。宝物は庭だけじゃない。本当の宝物は庭主さんたちである。そんなすばらしい庄原市の庭主さんたちのお庭に是非おいでください。

そろそろまとめに入ります。個人の趣味を地域の活性化につなげるには、「1人ではダメ、みんなで手をつなごう！」を合い言葉に、点と点で活動している花いっぱい活動を一つのネットワークにすることが大切です。

個人の小さな取組を大きなうねりにして、地域に貢献できる仕組みの一つがさとやまオープンガーデンだと私は考えています。来年の春に予定しているオープンガーデンでは、いろいろなグループや団体がメリットを共有して、個々の強みを生かして、成果を生み出す仕組みづくりを考えよう、取組を考えようと思っております。花にできることは限りなく大きいと思います。

それでは、最後にしょうばら花会議の活動理念をお話しして終わりにしたいと思います。庄原市に住んでいる一人一人が庄原市の庭や玄関先を美しくすることで、まち全体が公園になると考えます。そこで、このような理念になりました。

しょうばら花会議では、身近な玄関先から花と緑のまちづくりを広げていきたいと考えています。

しょうばら花会議は、参加する人が、愉快で楽しいことが一番の目標でありたいと考えています。

しょうばら花会議は、楽しみながら、住んでよかったと思えるまちづくりを目指しています。

私たちは私たちの住む庄原市が大好きです。「うちはしょうばらなんよ。ええところじゃけ、遊びに来んさい」と胸を張って言える、もっともっとすばらしいまちづくりを目指して、みんなで力を合わせて楽しく活動していきたいと考えています。御清聴ありがとうございました。

(知 事)

佐藤さん、どうもありがとうございました。本当にすばらしい庭主さんとお庭と、庄原市に住んでみたいなど思わせるような、すばらしい内容だったと思います。私はこの中で

すごいなと思ったのは、佐藤さんが点と点を結んでいくというふうにおっしゃったことです。点と点を結んでいこう。県庁でも言っているのですけれども、いろいろそういうふうに見える方は結構いらっしゃると思うのです。ところが、佐藤さんは実際にそれを行動に移して、それを本当につなげてしまったのです。思っているだけだったらこうならない。思っていらっしゃって、本当に一歩前を出て、それをつなげていった。そしたら、庭主さんの貝崎さんも、心を動かされて、お庭を開放して、あんなすばらしいお庭をみんなに見てもらおう。それがまた庄原市の宝になるわけですし、最終的にはオープンガーデンで1週間に1万5,000人も人がいらっしゃる。1万5,000人と言えば、広島で、かき小屋というのを去年からやっていますけれども、1日2,000人ぐらい来られて、1週間で1万5,000人ぐらいなのです。それと同じぐらい。あれは随分話題になっていると思いますけれども、それぐらいやって来られるという、それだけ人を集める力を出しているというすばらしいことだと思います。本当に思いというのがすごく大事で、でも、思いだけではなくて、やっぱり前へ出て、やってみるという、すばらしい挑戦を聞かせていただきました。それでは、もう一度佐藤さんに大きな拍手をお願いいたします。どうもありがとうございました。

(司 会)

ありがとうございました。

意見交換

(司 会)

それでは、ここで湯崎知事のひろしま未来チャレンジビジョンの発表と、3人の皆様の取組の発表に関しまして、質問と意見交換を行いたいと思います。

なお、本日の懇談会は三次市、庄原市での取組事例をお聞きし、この地域を中心とした新たな広島県づくりに向けて皆さんとともに考えていこうというものです。このため、この質問と意見交換は、この趣旨と、これまでの発表を踏まえた内容のものに限らせていただきたいと思いますので、よろしく御協力をお願いいたします。

また、質問に際しましては、最初にお住まい、またはお勤めの市町名、お名前、どなたに対する御質問か、御意見を、お伝えをお願いいたします。

それでは、質問、御意見、どなたかございませんでしょうか。せっかくの機会ですので、是非積極的に挑戦をしてください。はい、お願いします。

(質問者A)

三次市十日市、この近くに住んでいますAと申します。先ほど発表されました児玉さん

にちょっとお伺いしたいのですが、先日、天皇陛下にお米を献上されたんですかね。

実は、私、以前ほかのところで講演会を聞かせてもらったときに、石川県の神子原というところが、神子原米というのがローマ法王に献上されたということで、今、セレブな雑誌でものすごく取り上げられまして、付加価値がついて、本当に年収の高い方向けに販売をされて、そのブランド力がついたのですけれども、それを仕掛けた方が元テレビ局に勤められていて、今は市役所の職員の方なのですけれども、テレビ局勤めだったので、メディア戦略がすごく上手でローマ法皇に献上されたのですけれども、本当は天皇陛下に献上したかった。そのほうが、ブランド力があるからと言われていたのです。そのブランドイメージを生かしたりとか、その情報発信なのですけれども、そういった部分が、宝はあるのだけど情報発信がなかなかできていない部分があって、結構三次市などでもこれはいいのにとすることがあるのです。そういったことをどういうふうに発信していくかというところを、知事、もしアドバイスなど、いいものを持っているのにそれをどう磨いていいのか分からないというパターンが結構見受けられると思ったので、そちらのほう、アドバイスのにお聞かせいただければと。漠然とした感じなのですが、お願いできればと思います。

(知 事)

ありがとうございます。さっきお伺いして、天皇陛下に献上したということは知らなかったもので、私もびっくりしていたのですけれども、いい点を御指摘いただいて、本当に、これは新聞に取り上げられていないのですか。

(児玉)

この献上米というのは、指名を受けたときに天皇陛下に献上したことをPRしてはいけないということになっておりますので、天皇陛下に献上した米ですよということはありません。公表してはいけないと言われておりますので、その点がちょっと残念とは思っております。

(知 事)

そうなのですか。では、やっぱりPRのためにはローマ法王に献上するほうがいいのかもしいんですね。でも、本当におっしゃるとおりで、今日は庄原市の米農家の藤本さんもいらっしやっているのですけれども、大阪で300戸ぐらいの農家が集まる中で日本一になられたそうなのです。今、あそこに座っていらっしやるのですけれども、今のはささやかなPRということで。でも、これを知ってもらおうというのはすごく課題だと思うのです。例えば広島県もスキー場のことだとか、今の「瀬戸内 海の道構想」でも、知ってもらおうということがすごく大事なので、それに一生懸命取り組んでいます。なかなかマジックみたいな答えはないのですけれども、やっぱりまめに発信していくということ。あとは、是非行政もうまく使っていただけるとありがたいと思います。県も、きっと庄原市にして

も、三次市にしても、どんどんアピールをしたいと思っているので、そういった行政あるいは商工会議所、そういった団体とか、そういうところを御利用いただけたらいいのではないかと思います。

(質問者 A)

ありがとうございました。では、ちょっとPRをさせてもらってもいいですか。明日9時からそちらの中央通り、バスセンター前の出会いの広場から中央通りで軽トラ朝市が行われますので、是非皆様お越しくください。農村と町をつなぐ40店ほどブースが出ます。是非皆様お越しいただければと思います。すみません。PRもさせていただきました。ありがとうございます。

(知 事)

すっごいおいしい野菜がいっぱい来ますから、皆さん、是非やってきてください。

(司会者)

軽トラ朝市、県の広報としても積極的に発信していきたいと思いますので、どうかよろしくをお願いします。

ほかに御意見とか御質問ございませんでしょうか。どうぞ。

(質問者 B)

庄原市のBといいます。知事をお願いですが、非常に広島県の畜産は衰退の一途をたどっております。牛においては、私は牛関係ですが、三次市の家畜市場も非常に、今は横ばいのものですが、是非私は知事に、前にも3市の議員研修会の際にお願いしたのですが、年に一度や二度は市場見学ぐらいに足を運んでもらって、知事が来たから牛の価格が上がるとは思いませんが、しかし、県の取組というか、職員に及ぼす影響というのはものすごいものがあると思うのです。今、庄原市にも言っているのですが、職員の間が、どう生きるかということですよね。事業仕分けも滋賀県の高島市に行きましたが、事業仕分けの効果は少なかった。あそこが一番先にとったそうですが、しかし、職員がすごく充実したと言うのです。そういう意味においては、知事も三次市の家畜市場ぐらいは年に一、二遍、来てほしい。栃木県になるのかもしれませんが、矢板の市場へは知事は年2回ぐらい必ず行っているそうですが、全国で一番の市場になっております。是非ともお願いしたいと思います。

(知 事)

ありがとうございます。私にそれだけの力があるかどうか分かりませんが、一度

お邪魔させていただきたいと思います。

広島牛というのは、本当においしいですね。またいろいろところでPRしたいと思っているのですが、本当に日本中でも僕は一番じゃないかと思うぐらいおいしい牛だと思いますので、この地域の方々はたくさん召し上がっていらっしゃるかもしれませんが、いろいろ販売にも頑張っていきたいと思います。ありがとうございます。

(司 会)

ありがとうございました。ほかに御質問とか御意見ございませんでしょうか。どうぞ。

(質問者C)

十日市東のCと申します。先ほどAさんのほうから具体的なPRをされました。明日あそこの中央通りでトラック朝市をやるのですけれども、地元の住民がこの元気のない三次市を少しでも盛り上げようと知恵を絞ってやられるのですけれども、今まで実行委員会の方から私が聞いた範疇では、本来のやり方は中央通りを通行止めにして、自由通路にして軽トラ市をやりたかったと。ところが、なかなかそれが警察当局のほうとうまく話ができずに、道路面に沿った民地の駐車場を借りて、そこに軽トラ市をつくる。本来の目的からすると、大変残念な結果なのです。是非ともそういう地域の住民が一生懸命まちおこしのために、賑わい創出のためにやろうとするときに、そのようなことが隘路になるのです。そういうときに、是非とも知事のお力を借りて、通行止めにしてもらって、次からはその朝市ができるように、是非ともお願いしておきます。PRの補助をしましたので、よろしく。

(知 事)

ありがとうございます。もちろん行政はいっぱい後押しをしたいと思っていると思うのですが、それぞれ、交通規制でいろいろな不便を被られる方もいらっしゃるのです。そういういろいろな事柄のあった結果、それが実現していないのだと思います。ただ、工夫の仕方です。人がたくさん集まりやすい、集まってもらえるやり方というのはいろいろあると思います。交通規制を改善するというのがそれだということであれば、私はそれを進めればよいと思いますし、そうするべきだと思うのですが、そこはまたいろいろな皆さんの知恵を集めて、もっともっと人が来られるように工夫をしていければというふうに思います。どうもありがとうございました。

(司 会)

ありがとうございました。それでは、本当にすばらしい意見とか御提案とか、御質問ありがとうございました。

挑戦発表

(司 会)

時間が押しておりますので、次の「私の挑戦」に移りたいと思います。

ここでまた、私の挑戦につきましては、湯崎知事に発表のコーディネーターを務めていただきます。湯崎知事、よろしくお願いいたします。

(知 事)

時間も大変押しております、申し訳ございません。募集しておりました「私の挑戦」、今回は一般の方が2名、高校生が2名、中学生1名の計5名の発表です。

今日ここで皆さんに発表していただきます地域で取り組まれているいろいろな挑戦が、本当に明日の広島県の元気につながっていくと思いますので、元気よく発表をお願いしたいと思います。

それでは、最初に、三次市在住のイラストレーターの寺河未帆さん、お願いします。テーマは「県北のイラストレーターだからできること」です。それでは、寺河さん、お願いします。

(挑戦発表者 (寺河))

はじめまして、地元三次市でプロのイラストレーターとして「山東ななか」というペンネームで活動しております。三次市街を今走っております黄色い「くるるん」というバスのデザインを手掛けさせていただいております。県北で顔の見える、なおかつアートディレクターもできるイラストレーターを目指して起業しております。イラストやデザインには、商品の魅力やイメージ、そういうものをダイレクトに伝える力がありますので、それを県北の商品と一緒にコラボすることによって、さらに魅力を高めて、広島県下、全国に、商品の魅力をアップしていきたいと思って、目指して頑張っています。また、起業するにあたってたくさんの人に出会って、県北で頑張っています。今はほとんど女性ばかりなのですが、情報交換のグループ「たちあおいの会」というものを発足しまして、今年の9月18日に2回目となりました「たちあおいマルシェ」という手づくり雑貨やこだわりの食品などの販売イベントを開催しまして、こちらの当時の想像を超える約2,000名のお客様で会場がいっぱいになりまして、本当にうれしい限りです。これは、メンバーの女性のパワーとボランティアで手伝ってくださった方々のおかげだと思っています。

県北にはまだ素晴らしい物づくりをされている方がたくさんいらっしゃいますので、そういう方の発表の場や、販売の機会を創出していきたいと思っています。

また、今、三次市の観光サポートスタッフもさせていただいてまして、三次市のキャラクターを募集しています。そういったことで、三次市の観光ともコラボして、元気で楽

しい三次市をつくっていきたいと思います。

(知 事)

ありがとうございました。いいものをつくるというのはもちろん大事なのですが、それに加えてソフトパワーですよ。今のPRしていくというのはソフトパワーなのですが、それを地域で実践して、もっともっと強いもの、いいものにしていく。そういう挑戦をされているということだと思います。それでは、寺河さんにもう一度大きな拍手をお願いします。ありがとうございました。

続いては、庄原市の「庄原焼きプロジェクト連絡会議」会長の西田学さんです。テーマは、「庄原産B級グルメ『庄原焼き』の挑戦」です。よろしくお願いします。

(挑戦発表者 (西田))

皆さん、こんにちは。「庄原焼きプロジェクト連絡会議」会長の西田です。昨年7月に販売を開始した「庄原焼き」、まだ1年半しかたっていませんけれども、随分県内各地に認知されてきました。ありがとうございます。庄原焼きは、皆さんご存じのように、広島風お好み焼きのそばの代わりに庄原産のおいしいごはん、それからお好みソースの代わりにポン酢をかけて食べる新感覚のお好み焼きです。庄原法人会の青年部会で、「ふるさと庄原市がちよっと元気がない。備北丘陵公園にはすげえ人が来てくれるんじゃないけど、市内にはなかなか人が来てくれんよね。これとって庄原市の名物の食事もないし」といったちょっとした発言から、じゃあ思い切ってつくろうということで、県立大学の学生さんも一緒になって、最後はお好み焼き屋さんの技術協力で何とかたどりついたわけです。

たまたま今年のテレビ小説が「てっぱん」だったこともあって、広島県のお好み焼きが大きくクローズアップされて、最初は全然考えていなかったのですが、B級グルメブーム、ご当地グルメブームもやってきちゃいまして、もう一つは、昨年からはまった広島フードフェスティバルのてっぱんグランプリで昨年は準優勝をいただいたことでマスコミに大きく取り上げられまして、予想以上に大きくなってきました。

今年から各種イベントに出るのに、庄原焼きひろめ隊とって、市民グループを立ち上げました。会社の従業員さんから、中には市役所のメンバーも入っていただいているのですが、各種イベントで庄原焼きを焼きながら庄原市のよさを認識しながら楽しんでいます。

先月行われました第2回の広島てっぱんグランプリでは、おかげさまで優勝させていただくことができました、ありがとうございます。大変な入り込み客で、11月度はがっつりお客さんも来て、各お店屋さんが儲かっているようです。湯崎さん、広島てっぱんグランプリのときにはお買いあげをいただいたということで、ありがとうございました。

これからの挑戦ですけれども、先日姫路でありましたB-1グランプリに出たいという話が出まして、今、愛Bリーグに登録申請中です。歴史と実績はまだ庄原焼きはないので、かなり難しいかもしれませんが、とりあえずは準会員になって、中・四国・近畿支部大会には出たいとみんなで考えております。

それから、今、同じようにてっぱん、広島のお好み焼きを頑張って広めていらっしゃる各地域のお好み焼きがありますよね。府中焼きさん、そして、尾道焼きさん、竹原焼きさん、三原焼きさん、皆さんで手を携えて何かできないかということで、今、考えているのが、仮称「ひろしまてっぱん同盟」というのを結成して、県内ではライバル、なおかつ、県外では手を携えて、広島県のお好み焼き、あえては広島県を売っていきたいと思っております。

最後ですが、明日、朝は軽トラ朝市があるようですが、実は今日3時からさとやまB級グルメフェスタということで、国営備北丘陵公園の北口で県内外8種類のB級グルメが集合してイベントを行っておりますので、イルミネーションと併せて、今晚は庄原市で楽しんでいただけますようによろしく申し上げます。ありがとうございました。

(知 事)

ありがとうございました。フードフェスティバル、私は2日目に行ったのですがけれどもものすごい大雨で、どろどろの中で、でも、いっぱいお客さんが並んでいて、てっぱんグランプリをみんな楽しんでいました。庄原焼きは誰も並んでいないので大丈夫かなと思ったら、なんと、庄原焼きはオペレーションが素晴らしいので、お客さんが来たらすぐに出すから、それで並ばない。ほかのところはお客さんが並んでしまったということで、実は断トツの1位だったのです。本当におめでとうございました。

さっきのお話で、食べるものもないのになど、ある意味でいうと愚痴ですよ。この愚痴が愚痴に終わらずに、行動につながった。そこからどンドンいって、グランプリまでとってしまう。この思いと行動があれば高いところに持って行けるという代表例のようなものではないかと思いました。それでは、改めて西田さんに大きな拍手をお願いします。ありがとうございました。

それでは、次は三次高校の2年生、大川朋寛さんです。テーマは、「挑戦し続けることへの挑戦～僕の前に道はない 僕の後に道はできる～」です。それでは、よろしく申し上げます。

(挑戦発表者 (大川))

こんにちは。先ほど紹介いただきました広島県立三次高等学校で生徒会長を務めています大川朋寛です。本日は私、少し風邪を引いており、先日病院に行ったのですが、そこで

見たテレビなどで、行政というものがどのようなものであるか、などをいろいろ見させていただきました。そういうことをいろいろ踏まえて、私はこの三次市を愛していますし、将来は何か恩返しをしたいとも考えています。

先ほど言いましたように、ただいま生徒会長を務めさせていただいていますが、校歌「今にして日本を興す」とあるように、三次高校の底力を見せてやろうじゃないかと、高い志とそれ相応の覚悟を持って日々を過ごしています。その際、私の目指す先にあるのはいつも地域の活性化というものです。恐らく全国でも珍しいでしょうが、体育大会では、新聞の折り込みチラシで宣伝をさせていただき、三次市の競技館を借りて、地域の方へ開放して三次の体育大会を楽しんでもらおうという活動をしています。文化祭でも、「絆」をテーマに被災地や地域とのつながりを第一に考えて活動してきました。月に1回、マイロード清掃活動というものをしておりますが、これは日ごろ私たちが使わせていただいている地域の道路を清掃するという活動で、月初めから活動を始めて、月終わりにはできるように、毎月精力的に取り組んでいます。

そんな私が挑戦していることというのは、少し抽象的なものかもしれませんが、挑戦し続けることに挑戦するというものです。挑戦にはもちろん困難がつきものですが、その逆境を乗り越えて挑戦をし続けるというのが私の目標というか、挑戦です。

高村光太郎さんの言葉に、「僕の前に道はない。僕の後ろに道はできる」という言葉がありますが、私が挑戦することで、誰かの道しるべになりたいと思います。そして、その人たちが共同体というものができますから、長いスタンスで見ると、地域のためになり、国のためになり、もしかしたら世界のためになるという大きな夢もこの中に含まれています。

しかし、このような目標は持っているものの、実際、私というのは何もできない、何の能力もまだ持っていません。そのため、これからは私自身、スキルを磨いていこうと考えています。そこでまず必要なのが、やはり国際感覚を身につけることだと思っています。グローバル化している今日で、何ととっても力を発揮するのは、グローバルスタンダードを持っている人だと思っています。

今年の6月にアメリカ空軍士官学校の方々が我が校に来校されたのですが、そこで私が感じたのは、彼らとの文化の違いです。彼らは二つの高校を一遍に卒業していたり、大きな集団ですが、個人個人、一人一人に意思があるというか、個人主義がしっかりと根付いていたのです。このような違い一つ一つに驚いているようでは、まだ私に国際感覚が身につけているとは言えません。今は確かに驚くことしかできませんが、いつかはこれらのものを相対化できるように、そういう力をつけていきたいと思っています。

そのために必要なのが国際標準語である英語だと思っています。私は数々のスピーチ大会やそういう講演会に参加させていただいたりして、英語にはかかわってきているつもりですが、まだまだ足りないと思っています。今年12月に台湾に修学旅行に行きます。そこで私

は学校を代表して挨拶をさせていただくことになっています。頑張りたいと思いますが、私の英語に関しての一番の目標は、英語でけんかができるようになることです。もちろん外部の人たちとちゃんとしたコミュニケーションをとることも大切なのですが、やはり激しい口げんかができるようになったら一人前だと言われているので、目指して頑張っていきたいと思います。

今回、このように長い、ちょっと抽象的で大きなお話をさせていただいたのですが、それは、私の挑戦というのが、私にかかわるすべてのこと、それ自身が挑戦だからです。

今はこういうふうにスキルを高めていくことしかできませんが、この階段を上ることが、いつか三次市、広島県に何かよいものをもたらすものだと思っていて、これからも、今からも挑戦し続けていくことに挑戦していきたいと思います。御清聴ありがとうございました。

(知 事)

ありがとうございました。若いときの苦労は買ってでもしろという言葉もありますけれども、大川さんのように前向きに挑戦をし続ける。これは本当に大事だし、今の若いときには、それをやり続けるということで、将来にそれこそ大きな道が開けてくるのではないかと思います。ちなみに、けんかをするのであれば、広島弁のほうが英語よりは強いと思います。広島弁で言うと、大体のアメリカ人はびっくりするんじゃないでしょうか。

それでは、今後の大川さんの活躍に期待して、皆さん、大きな拍手をお願いします。

次は、庄原実業高校3年生の門永万実さんです。テーマは「私の将来～農業で豊かな地域づくりに挑戦～」です。それでは、門永さん、お願いします。

(挑戦発表者(門永))

私は母の勧めで中学2年生から生け花を習い始め、花材である植物のよさを生かすためには、どうすればいいか考え、自分で栽培した草花を用いて生けてみたいと思うようになりました。そのため、農業高校に進学し、草花栽培の基礎、基本を学び、草花の品種により栽培方法が異なることや、草花の個性、特性が異なり、それらの特性を生かすアレンジメントに一層魅力を感じました。

私は、放課後や休日を利用し、ブーケやブートニアなどの作成にのめり込み、高校生では珍しいフラワー装飾技能士3級の資格も取得しました。このような体験を通して、私は生活に潤いを与えてくれる草花の大切さを実感しました。

現在、草花栽培とその利用ということを目的に、トルコキキョウやガーベラなどの切り花栽培技術の向上と、規格外の花を一輪挿しにするなど、フラワーアレンジを用いた切り花の活用について研究しています。

大変おこがましいかもしれませんが、今日は湯崎知事さんのために、私が栽培した花を用いてアレンジメントをつくってきました。是非御自宅か知事室に飾ってください。できればデジカメで撮って送ってください。これがそのアレンジです。後ほどお渡ししますので、是非受け取ってください。

私は、高校卒業後、大学に進学し、より専門的に草花の生理・生態や品種改良について研究したいと思っています。例えばシクラメンでは、現在、白や赤の花しかありませんが、自然界では作ることが難しいと言われていた青などの鮮やかな色を作ったり、また、夏場では1週間くらいしか花はもちませんが、もっと長期間観賞ができるように品種改良したいと思っています。

大学卒業後は、農業試験場か種苗会社等の研究機関に勤め、草花の栽培技術の確立とその普及に努め、農業を通してここ庄原市や三次市などの中山間地域の発展に貢献したいと思っています。また、草花のアレンジや生け花などを日常生活に取り入れ、心の豊かさや生活に彩りを添えることのできる農業技術者として社会に貢献したいと考えています。これが私の挑戦です。ありがとうございました。

(知 事)

門永さん、ありがとうございました。お話を聞いていて、皆さんもそうだと思うのですが、けれども、高校生というよりは、大学生か社会人何年目かぐらいの、とてもしっかりとして、目標をちゃんと持って、そこに邁進をしていくという、エネルギーも思いもすごく持っていたらっしゃる門永さんでした。きっとすばらしい草花を育てて、庄原市と広島を豊かにしてくれるのではないかと思います。それでは、もう一度門永さんに大きな拍手をお願いいたします。ありがとうございました。

それでは、最後になりますけれども、三次市の塩町中学校の山田奈保さんです。テーマは「三次から世界へ」です。

(挑戦発表者 (山田))

Hello, Mr. Yuzaki. Thank you so much for coming to here, Miyoshi. My name is Naho Yamada. My dream is to be a bridge between Japan and the world to make the world move heart to the peace. 私の住んでいる三次市は現在、中国、韓国、バングラデシュ、インド、アメリカ、カナダの6カ国と国際交流をしています。自分の世界を大きく広げたい。そんな思いから、私は今年の夏、インドのハイデラバード市へ行きました。それが私のチャレンジの第一歩となりました。そのときの私には、コミュニケーションが十分にとれるほどの英語力は全くありませんでした。しかし、そんな私をホストファミリーの皆さんや現地の方々はいつも温かく受け入れてくれ、そして、私のたどたどしい英語を一生懸命に聞

き、理解しようとしてくれました。もっと私に英語力があつたならば、インドでお世話になったホストファミリーの皆さんや友だち、出会ったすべての方々に私の心からの感謝の気持ちを伝えることができたのにという悔しさ、大粒の涙とともに私はただ Thank you so much. その一言しか伝えることができませんでした。今でも私はインドの友だちと交流を続けています。もっと彼らとの友情を深めていきたい。そんな強い思いから、私は以前より、随分一生懸命に英語の学習に取り組むようになりました。そして、今年の夏、私に新たな目標を与えてくれたある人との出会いがありました。それは、アメリカのホストブラザーのビルという人でした。彼は10年前、初めて日本へ来たときのこと、そして、広島平和公園を訪れたときのことを話してくれました。He said “Japanese culture had a great impact in my life, especially the aspects of promoting love, peace and harmony. I wish I could experience more of your culture and its relativity.” 私は小学校から今までの平和学習を通して感じたことや学んだことを一晩中身振り、手振り、そして、私が今まで習ってきた英語をフル活用して彼に話をしました。そして、別れのときに、彼は最後に、君はこれからもたくさんの国を訪れて、いろいろな人と出会うと思う。僕はあなたに、あなたの平和への考えや思いをしっかりと伝えてほしいと言いました。You can do that. そうエールをくれました。

知事が先日、国連の潘（パン）事務総長と会談され、国際平和拠点ひろしま構想への協力を求められたこと、また、スイスジュネーブの国連欧州本部にて、原爆資料の常設展示が開始されたことを新聞記事で読みました。確かな世界平和を築いていくためには、まず行動を起こすこと。そして、相手と心を通わせ、話をするを大切に、お互いの友情関係、そして絆、信頼関係をより深めて確かなものにしていくことが大切だと思いました。

私はこれからも世界に通用する英語、教養を身につけるために努力を続け、広島で生まれ、ここ三次市で育った誇りを胸に、世界中に私自身の平和への願いを伝えていける人になりたいです。

私は生き続ける限り、常に目標を前に置き、前向きに進み続けることができるチャレンジャーであり続けたいと思います。自分の力を信じて make my dream come true. 御清聴ありがとうございました。

（知 事）

山田さん、ありがとうございました。コミュニケーション、もちろん言葉が大事なのですけれども、それ以上に伝えようという気持ちが大事だと思うのです。山田さんはそれをいっぱい持っているので、きっとこれから世界中に山田さんの気持ちを伝えることができるのではないかと思います。それから、今、この新しい時代は、これまでグローバル化というと、東京のことみたいな感じがしていたのではないかと思いますけれども、決してそうではなくて、それぞれの地域が世界ともう結ばれているし、これからはもっともっとそ

れを強めていかなければいけない。前向きな大きな目標を持った山田さんはきっと実現できると思いますので、また頑張ってください。それでは山田さんにもう一度大きな拍手をお願いします。

(司 会)

ありがとうございました。すばらしい挑戦の発表をありがとうございました。

閉 会

(司 会)

以上で予定のプログラムは終了となります。

ここで、湯崎知事に本日のまとめをお願いいたします。

(知 事)

ありがとうございました。30分も予定をオーバーしておりまして、皆さん、御予定もあるところ大変申し訳ございません。ただ、今日、お話を聞いていただいて、この熱気というか、熱意というか、すばらしいものを感じていただけたのではないかと思います。一つ一つの活動というのは、普通にただ聞き流していると、本当に見過ごしてしまうかもしれないのですけれども、こうやってちゃんと一つ一つお話をお伺いすると、皆さんの思い、それからそれを行動につなげていくということ、生まれてくるものは、思いと、それから行動の掛け算だと思うのです。思いがなかったら、行動しても生まれるものはない。 $0 \times 1 = 0$ なのです。思いがあっても、行動がなければ、出てくるもの、生まれるものはない。 $1 \times 0 = 0$ なのです。でも、 $1 \times 1 = 1$ になるし、 $1 \times 2 = 2$ 、 $2 \times 2 = 4$ になる、それがまたネットワークであったりとか、そういうことではないかと思います。

今日は皆さん、いろいろなところとつながりながらこの活動の輪を広げていって、社会を変えていくということを実践されている例ではなかったかと思いました。

こういう本当にお一人お一人、それぞれの持ち場、それぞれのいろいろな役割の中でそういうことを進めていくことが全体では本当に大きな力になっていくということがよくお分かりいただけたのではないかと思います。

今日発表いただきました児玉さん、徳岡さん、佐藤さん、また、チャレンジを発表していただきました皆様、本当にありがとうございました。

また、今日こうやって御参加をいただいた皆さんにも本当にお礼を申し上げたいと思います。地域にどんな力があるかというのを再発見していただけたと思いますし、それぞれお戻りになって、皆様御自身もまた挑戦していただきたいと思いますし、それを広めてい

ただけると大変にありがたいと思います。

本当に長い間でございましたけれども、本日はどうもありがとうございました。お疲れ様でございました。

で、終わりと思いきや、最後に一つだけございます。これは私からのお願いなのですが、けれども、実は今、広島県では安心な暮らしづくりという中でがん対策日本一というのを進めています。このがん対策日本一、一番大事なのは何かといいますと、実は早く発見することなのです。このためには検診を受けていただく。これが大事です。実は広島県のがん検診の受診率というのは非常に低いのです。検診をしていただくことによって、早く見つけて、早く治す。これによって助かる命というのがたくさんあります。周りの家族もみんな幸せになります。ということで、是非、チラシも入っておりますので、がん検診、地域あるいは職場、いろいろなところで提供されていますので、是非というか、絶対に参加してください。がん検診に行かれる方は手を挙げてください。ありがとうございます。それではお約束ということで、是非よろしくお願いします。

それでは、これで本当に以上でございます。本当にありがとうございました。

(司 会)

以上をもちまして、「湯崎英彦の宝さがしー未来チャレンジ・トーク」を閉会いたします。御来場いただきました皆様、本当にありがとうございました。

なお、御来場時にお渡ししたアンケートと、「ひろしま未来チャレンジネットワーク」の申込書を出口で回収いたしますので、どうかよろしく願いいたします。

本日は御参加をいただきまして誠にありがとうございました。どうかお気をつけてお帰りください。